



Martin Luther King Jr. Day Catrina Cairra

On the 3rd Monday in January there is a holiday in America for Martin Luther King Jr. (Dr. King). Dr. King was born in Georgia in 1929. At that time Black people in the American south did not have the same rights as white people. They could not go to the same schools or even use the same toilets. Dr. King believed everyone is equal and worked hard to see everyone understand this. Dr. King used peaceful marches and speeches to change the unfair laws. When a black woman got in trouble for not sitting at the back of the bus, Dr. King arrange for all the black people to stop riding the bus in that area. One year later the rule was changed. Dr. King is most famous for his “I have a Dream” speech. In it he said he wanted people to be seen for how they are not what they look like. Dr. King helped a lot of people. On Martin Luther King Jr. Day many people volunteer and help others to remember what Dr. King did. Martin Luther King Day was made a holiday in 1983 in America and in 2011 a memorial in honor of Dr. King opened in Washington. Many people now visit this monument on this day.

【ちよっと豆知識】 宮地晶子

(※1)現在は、黒人(black)という言葉は差別的なので、アフリカ系アメリカ人(African American)と言います。今回は内容を考えてカトリーナさんはあえてblackという言葉を選びました。

(※2)モンゴメリーバス・ボイコット事件のこと。一般の人が初めて公民権運動に参加して、大きなうねりとなった出来事。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの日 カトリーナ・カイラ

1月3日(月)はアメリカ合衆国では、祝日「マーティン・ルーサー・キング・ジュニア(キング牧師)の日」です。キング牧師は1929年、ジョージア州生まれ。当時、アメリカの黒人(※1)は白人と同等の権利を持たず、同じ学校に行くことも同じトイレを使用することもできませんでした。キング牧師は、すべての人に「人は皆平等だ」という信念を伝え理解を求めることに尽力しました。また、不公平な法律を変えるため、非暴力的デモやスピーチを行いました。黒人女性がバスの後ろに座らないことで問題に巻き込まれた時、キング牧師はその地域の黒人のバスのボイコット運動を起こしました(※2)。1年後、「黒人はバスの後ろに座らなければいけない」というルールは変更になりました。キング牧師といえば、「私には夢がある」のスピーチが有名です。スピーチの中で、彼は人が外見ではなく、内面で判断されるべきだと訴えました。また牧師は多くの人を支えました。故にこの祝日には、たくさんの方がボランティアをし、人に手を差し伸べ、その功績を偲びます。祝日になったのは1983年ですが、2011年には、敬意を表して、ワシントンに記念碑が建てられました。今では、大勢の人が1月3日に記念碑を訪れます。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第134回

図書館に行こう、本を読もう!

A L T (英語指導助手) のナタリーさんを自慢の中学校図書館に案内しました。日本語の本を読むと良い、と思ったからです。

大学で日本語を学んだ彼女ですが、教授は夏目漱石や村上春樹といった難しい本を薦め、今ひとつ親しめなかったそうです。今回勧めた本は、青い鳥文庫(講談社の小、中学生向けシリーズ)。漢字にルビ付きでどンドン読めます。実際楽しく読めたそうです。

外国語の「読む」と「話す」は別ものです。本は一気に

難易度を上げると難行苦行になります。そして挫折すると外国語習得は頭打ちです。日本でも、英文専攻なのに英語の本は卒業論文で一冊読んだだけ、なんていう人はザラ(私です)。これじゃ英語ができるわけがない。やはり「おもしろい」を実感できるレベルから、徐々に難易度を上げることが大切です。小学生向けの1行文の本から読みましょう。

今私が読んでるのは、毎回主人公が殺人現場に居合わせてしまうお気楽ミステリー。15巻全部でなんと格安の101円(アマゾンのタブレット・キンドルで購入)。頭の中の英語の枠を維持するには、これで十分です。大量に英語に触れておけば、通訳のときには専門用語を覚えることに集中できます。

うまく多読の流れに乗るには、その道筋を一緒に考えてくれるガイド役が必要です。難しい本を薦めたら挫折する生徒が続出しますからね。その点、中学校の図書館には、いつもあなたの興味関心やレベルを考慮してアドバイスをくれる素晴らしい司書さんがいます。うれしい限りです。